

アヤマレリ、癘疾ノ發スル定ル所ナシ、多クハ是脇腹ノ中ナリ、

〔辨症救急〕速打肩。本邦尤多、但高貴家無有、負量勞力、腦動鬱結不散、令氣促迫、則一時氣逆血止、瘀血與結氣併、上攻刺於心肺、卒倒氣絕、至不救者多、惟急針膏盲、出血泄氣、即活者間有之也、此證會不灸膏盲、覺氣寒肩背重者、卒致此患、以此爲候、按速急也、打打破也、膏盲乃近肩處、故世俗以速打肩名之哉。

〔譚話浮世風呂 前編 上〕朝湯の光景

ヲイ番頭、目を廻した人があるせエ、湯氣に上つた、ばんとう ナニ湯氣に上つた、夫は大變大變ト、ゆばんのよいにて、ふるの中よりかつぎいだせば、誰だ、よいのぶた七だ、病人のくせに長湯をするからだ、水を吹かける、草履を顔へ載るエ、ナニそりやア顛癩だ、刀豆と肩へ書が能い、それこそ早打肩だ、ぶた七ヤア引、ぶた七ヤア、イドドドンチャン、、玄やうだんじやアねへ、呼生ろト、かほへ水をふいて、大きはぎになる、、どうだ、ぶた七ト、かうく、にぶた七は、いきをかへす、、氣がついたか、

喘息

〔倭名類聚抄三〕喘息 唐韻云、歎昌苑反、字亦、口氣引貌也、

〔箋注倭名類聚抄三〕山田本作昌兗反、那波本同、按昌兗反、與廣韻喘字音合、在上聲二十八獮、苑在

二十阮、其韻不同、作苑非是、昌平本、曲直瀬本作昌充反、亦譌、醫心方喘同訓、萬葉集笠朝臣金村角

鹿津乘船歌云、海路爾出而阿倍寸管我、撈行者即是、新撰字鏡古本訓阿波支、今俗呼以岐岐禮、

略 所引文廣韻同、釋名、喘湍也、湍疾也、氣出入湍疾也、按說文、歎口氣引也、徐音市緣切、喘疾息也、徐

音昌沈切、二字音義皆不同、廣韻、歎口氣引貌、市緣切、又昌兗切、喘喘息、說文曰、疾息也、昌兗切、雖其

音或同、然義則異、阿倍岐者、謂疾息、則宜用喘字、而集韻舉喘歎二字、云喘息、說文曰、疾息也、昌兗切、

遂以歎爲疾息字、然則阿倍岐用歎字、非無據、然宜引疾息之訓、引口氣引貌訓、非是、